vinetur

Nyetimber、英国史上最も暑い夏を受けて記録的な早期収穫を開始

英スパークリングワイン生産者Nyetimberは、9月14日に英国南東部で収穫を開始。過去最速の記録より5日早い。

2026年9月15日（火）



英スパークリングワインの代表的生産者の一つであるNyetimberは、異例の暑さで一部のブドウの熟成が早まったことを受け、9月14日に英国南東部の一部地域で収穫を開始した。これは同社にとって記録上最も早い収穫開始となる。

同社によると、今年の暑さが主因となり、自社のぶどう畑では少数のブドウがすでに収穫可能な状態になっていた。開始日は、Nyetimberのこれまでの最速収穫日だった2018年9月19日より5日早い。生産者はWest Sussex、Hampshire、Kentにまたがって11のぶどう畑を持ち、9月21日から収穫を拡大する見通しだ。

今回の早い開始は、Met Officeの暫定 आंक? figures? Need Japanese. Wait output has issue in paragraph 3? Let's correct entire JSON.

Nyetimberによると、より大規模な収穫作業は来週始まり、約500人の摘み手が参加する見込みだ。同社は主力の摘み取り期間中、平均して1日最大170トンのブドウを収穫できると見込んでいる。収穫は10月初めまで続く予定で、約150万本のスパークリングワインを生産できる可能性がある。

同社のチーフワインメーカー、Cherie Spriggs氏は、2026年シーズンはこのエステートにとって、またしても前例のない収穫となったと述べた。同氏によると、晩春の霜で約30％が影響を受け、夏の干ばつで一部のベリーの大きさが小さくなるなど、同年は逆風もあった。それでも、暑く日照に恵まれた条件がそうした圧力を相殺し、高品質なワインにつながる強い可能性を生み出したという。

同社幹部は、最近の気象パターンを踏まえると、2026年はNyetimberにとって当たり年になる可能性があるとみている。同社の主席栽培責任者Ben Kantsler氏は、最初の摘み取りを前にChardonnayの状態を確認するため、Amberleyのぶどう畑にいた。

この早い収穫はNyetimberの外でも注目されている。英国のワイン生産者が、より温暖な生育シーズンにどう備えるべきかという、より広い変化を示しているからだ。特にスパークリングワインの生産者にとっては、収穫時期の前後移動が、労働力の手配、ブドウの取り扱い、ワイナリーの処理能力、そして最終的なワインのスタイルを形づくる糖度と酸度のバランスに関する判断に影響を及ぼしうる。飲料業界全体でも、収穫期間の圧縮や前倒しは生産カレンダーや供給計画を変え、特に季節労働と厳密なタイミングの工程に依存する生産者ではその影響が大きい。

英国のワイン産業は近年急速に拡大しており、その成長の中心にあるのがスパークリングワインだ。生産者はChardonnay、Pinot Noir、Pinot Meunierといったブドウに適した条件の恩恵を受けてきた。一方で、より暑い夏、干ばつ、春霜は生育期の変動を一段と大きくしている。Nyetimberの2026年収穫は、その両面を映し出している。成熟を早めるのに十分な暖かさがあった一方で、果実量と均一性を脅かすほど厳しい条件でもあった。

9月14日の同社の最初の摘み取りは、すでに熟した区画に限られた。9月21日からはより広範な立ち上げが始まり、プレミアム・スパークリングワインに必要な品質基準を満たす作柄がどれだけあるかが見極められる見通しだ。現在、West Sussexで摘み取りが進んでおり、さらに多くの作業班がエステート全体に入る予定で、今後数週間は、この季節の暑さが高い品質と生産予想を満たすだけの量の両方につながるかどうかを試すことになる。